

2018 年度統計関連学会連合第 1 回理事会・組織委員会 議事録

日 時：2018 年 4 月 28 日（土）13:30 - 15:40

場 所：東京医科歯科大学 M&D タワー18F 小会議室 1

出席者：

【学会連合理事】

応用統計学会	永田 靖
日本計算機統計学会	大石雅彦, 足立浩平
日本計量生物学会	大橋靖雄
日本行動計量学会	
日本統計学会	赤平昌文, 西郷 浩
日本分類学会	栗原考次（理事長）, 山本義郎
【連合大会実行委員会】	鎌倉稔成, 酒折文武
【連合大会運営委員会】	笛田 薫, 中川重和
【連合大会プログラム委員会】	汪 金芳
【JJSD】	岩崎 学
【統計数理研究所】	樋口知之
幹事	石岡文生, 酒折文武, 富田 誠

組織委員会・議案

1. 2018 年度連合大会の運営方針

栗原理事長より、本大会は国際的な学術集會を志向し、海外からの参加者増および英語セッションの充実化などの方策を検討している旨の説明とともに、海外から著名な研究者を招いてのプレナリーセッションを企画しているとの説明があった。続いて、樋口統計数理研究所所長より、プレナリーセッションの内容について説明があり、審議の結果、承認された。また、このことに関連して以下のことが確認された。

- ・ 統計数理研究所と統計関連学会連合大会の組織委員会とが共同で主催する。
- ・ 内容は、海外から赤池メモリアルレクチャー賞受賞者を招いての講演、授賞式及び討論等。各々の具体的な時間配分については引き続き検討する。
- ・ 開催日時は大会 1 日目（9 月 10 日（月））の午前中とする。
- ・ 本大会を 4 日間にする事及びプレナリーセッションの実施については、今回試行的に行っている。プレナリーセッションの恒例化（2 年毎に赤池メモリアルレクチャーをプレナリーセッションとして開催）する事については、前向きに検討する。

2. 連合大会 3 委員会における進捗状況について

(1) 笛田運営委員長より、連合大会の予算案が提出され、審議の結果、学生の懇親会費及び市民講演会・

チュートリアルセミナーの講師謝金に関する項目を修正の上、承認された。また、大会の進捗状況及び予算案に関して、以下の通り報告があった。

- ・ Web ページに関して、英語ページ作成といった今年度から新たに加わった要因等もあり、例年よりも 1 か月ほど遅れての公開となったが、参加者の申込等は例年通りのスケジュールで対応可能である。
 - ・ 開催日程が例年よりも 1 日増えたことを加味して参加費を高めを設定することも検討したが、年々参加者が増加している事に加え、今年は東京開催ということで参加者増が見込めることから、過去最高額は超えない参加費設定とした。
 - ・ 組織委員会の運営費として、今年から新たに連合大会の予算から 50 万円を支出する。
 - ・ 大会予算の全体的な収支について、組織委員会への支出を除けば、収入額と支出額はほぼ相殺される。
- (2) 酒折実行副委員長より、実行委員会の構成、会場、懇親会、託児所について報告が行われた。また、以下の通り意見交換が行われた。
- ・ 懇親会の料理について、懇親会場からは洋食で提案が届いているが、海外からの参加者を配慮し和食も少し加えた方がよいか？ → メニュー決定までに特段の要望が無ければ、提案通り洋食とする。
 - ・ 託児所について、昨年の例に倣い、業者の推薦はこちらで行うが、業者との具体的な交渉は各自で行ってもらおう事とする。また、実際に利用するにあたっては、利用業者・利用日・費用等を事前に大会側に連絡することとし、その費用は大会から補助する。
- (3) 汪プログラム委員長より、資料として提出された連合大会第三報（案）に沿うかたちで大会概要の説明がなされた。また、以下の通り意見交換が行われた。
- ・ 第三報の公開日及び講演申込・報告集原稿提出・事前参加申込の日程について、ほぼ例年通りのスケジュールである。
 - ・ 企画セッション講演者の申込作業について、これまで各々の企画セッションのオーガナイザーが講演申込や原稿提出等を取りまとめていたが、オーガナイザーの負担軽減のため、今大会では講演者自身で各種登録作業を行う様にシステムを変更した。
 - ・ 統計数理研究所と組織委員会が主催のプレナリーセッションは、統計関連学会連合としてのセッションとする。
 - ・ コンペティション講演の申込が年々増えており、プログラム委員で全ての審査をカバーするのが困難になってきていることから、もし審査員が不足する場合は、プログラム委員に加えて、JJSD の Associate Editor の中から、各学会が審査員を若干名選出する。
 - ・ 講演申込時の言語選択について、種々の議論の結果、本大会では、「日本語」「英語」「どちらでもよい」のいずれかを講演者が選択できる形式となった。
 - ・ チュートリアル・市民講演会の講師への謝金について、ルール見直しの議論があった。
 - ・ 栗原理事長より、文部科学省やデータサイエンティスト協会等から講演者を招き、データサイエンスに関連する企画セッションを組織委員会から企画することが提案され、承認された。開催日時等は栗原理事長と汪プログラム委員長で調整する。また、具体的な講演者との交渉については栗原理

事長に一任する。

3. その他

- ・ 栗原理事長より、運営副委員長及びプログラム副委員長（次大会の委員長）も、次大会への引き継ぎ等を考慮して、組織委員会の正式なメンバーに加えることが提案され、承認された。
- ・ プレナリーセッションの前に開会式を開催することを確認した。時間帯・内容等については引き続き検討する。

連合理事会・報告

1. JJSD の現状について

- ・ 青嶋編集委員長が欠席のため、代理で石岡幹事より次の通り報告があった。
 - 6月発刊予定の創刊号について、現状では予定通り原著2本、特集9本となっている。なお、発刊までに若干原著が増える可能性がある。
 - 「Editorial」と「特集序文」は青嶋編集委員長が作成する。
 - 今年に入って30本（月7～8本のペース）の投稿があり、安定している。数号の発刊の後、インパクトファクターを獲得できるまでが正念場。そのためにも、営業活動を継続してもらいたい。シュプリンガーの平地さんに言えば無料でチラシが頂ける。
- ・ JJSD 発刊に伴う各学会からの負担金について、まずは日本統計学会から200万円、日本計算機統計学会から50万円を負担するが、今後については引き続き検討する。また、連合理事会から各学会に負担金の請求書を発行することを確認した。

2. 2018年度連合理事会・組織委員会の日程について

- ・ 栗原理事長より、第2回を2018年9月の連合大会開催中に、第3回を12月頃に開催する旨、説明が行われた。

連合理事会・議案

1. 2017年度事業報告・会計報告について

- ・ 栗原理事長より、2017年度に統計関連学会連合が実施した事業について、以下の通り説明があり、審議の結果、承認された。
 - 統計関連学会連合理事会・組織委員会の開催
 - 2017年度統計関連学会連合大会の開催
 - Japanese Journal of Statistics and Data Science (JJSD) の発刊準備
 - Japanese Federation of Statistical Science Associations (JFSSA) のロゴ作成
 - 「統計家の行動基準」の策定
 - 「若手の会」の設置
 - 規定の改定

■ 各種事業への共催・後援・協賛

- ・ 石岡幹事より、2017年度の会計報告について説明があり、審議の結果、承認された。また次の通り補足説明があった。
 - 連合大会が連合理事会に支払うサーバー使用料について、連合理事会から請求がなかったこともあり、2017年度は連合大会から連合理事会に支払が行われなかった。2018年度に2017年度と合わせて2年分（20万円）が支払われる。
 - 連合理事会が業者に支払うサーバー使用料について、2017年度の請求書が連合理事会ではなく統計質保証推進協会に届いてしまい、そこが2017年5月9日にレンタルサーバー費用（183,800円+税）を支払っていたため、2018年4月20日にその費用を連合理事会から統計質保証推進協会に支払った。

2. 2018年度事業計画について

- ・ 栗原理事長より、2018年度の統計関連学会連合の事業計画について、以下の通り説明があり、審議の結果、承認された。
 - 統計関連学会連合理事会・組織委員会の開催
 - 2018年度統計関連学会連合大会の開催
 - Japanese Journal of Statistics and Data Science (JJSD) の発刊
 - 事業委員会、統計教育推進委員会、若手の会の開催
 - 統計関連学会連合事務局の充実
 - 共催および後援

3. 統計教育推進委員会について

- ・ 栗原理事長より、統計教育推進委員会について、委員の任期は2016年度（2017年3月）までであったが、その後、引き継ぎ等が適切に行われておらず、委員会再編をペンディングにしていた旨の説明があった。その一方で、2018年3月に高等学校学習指導要領案に対するパブリックコメント提出の必要が生じたため、2018年4月まで旧委員の任期を延長の上、対応したとの報告が行われた。
- ・ 今後も同様の活動内容が想定されること、また、同委員会の運用規定も存在することから、今後も同委員会は継続することとし、また改めて各学会から2018年度の統計教育推進委員を選出してもらいたいとの依頼があった。

4. その他

- ・ 栗原理事長より、連合の事業委員会について、次の様に提案がなされ、審議の結果、承認された。
 - 欧文ジャーナル委員会、欧文ジャーナル Coordinating Editor、統計教育推進委員会は引き続き継続する。
 - WEB委員会については名称を広報委員会に変更し、JJSD等の統計関連学会連合としての活動の広報、また、連合のwebページ関連の充実といった役割を担う。
 - 行動基準委員会についてはその業務を終えたことから解散とする。
 - 各事業委員会は、各学会から選出された委員、及び連合理事会から指名された者で構成する。ま

た，必要に応じて委員長を置く。

- 各委員会の任期について，基本的には奇数年度から2年とするが，途中変更等があれば適宜理事長に報告する。
- ・ 栗原理事長より，組織委員会の旅費補助について，勤務地が東京以外の方を対象にするとの説明があった。
- ・ 栗原理事長より，前回理事会から本日までに，次のイベントに後援したことが報告された。
 - さきがけ「数学協働」領域の1期生成果報告会（2018年2月13日 受諾）
- ・ 栗原理事長より，2020年度の連合大会の開催地について，9月の大会までを目途に検討する旨，説明があった。